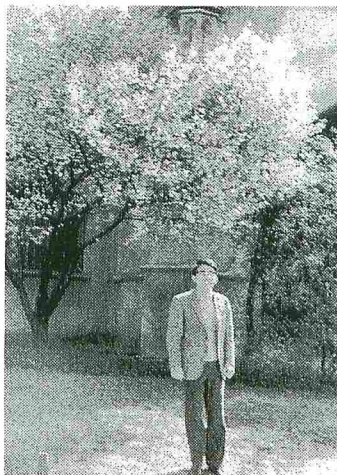


デジタル通信革命の舞台裏

内海善雄 前I-T-U事務総局長

—2—

政治学部
は、全員が博
士コースにな
っており、卒
業生は、他の
大学の教授
や、研究者、



シカゴ大学留学時の筆者

あつた。
そこで、自分が新しいこ
とを発見する喜びというも
のを味わった。その後の私
の人生は、新しいことに手
ヤレンジする人生であつた
といえるが、この留学で知
った喜びが影響していると
思う。

郵政省では、時々本省で
研修を受けながら、中野郵
便局で、郵便の配達から貯
金の窓口事務まで、1年間
の現場実習をした。

ある職場だつた。いわは、
郵政省の保守本流的なとこ
ろである。
1970年、郵政省入省
4年目に人事院の行政官海
外研修制度で、シカゴ大学
の大学院政治学部で留学す
ることになった。

シャーナリストなどになつ
ていた。学生達は、一日も
早くPhDを得るために努
力して、教室と図書館
と自宅以外どこへも行か
ず、楽しい学園生活とはま
るで縁のないものであつ
た。

この面倒を見た子供たち
は立派に成長し、兄は、ア
カマイ社の社長、弟はハー
バードの教授になつてい
るとが分かつたので修士論文
にまとめた。これは、著名
で、裕福なア
メリカ人が何
を考へ、どん
な生活をして
るかを勧められた。

本省では、先輩の三浦一
郎文書課長補佐から、生ま
れて初めて「通信経済学」
という言葉を知った。当時
は「交通経済学」という言
葉があつたが、通信政策を
研究する学者もおらず、著
書も見ることがなかった。

学級肌には、なかなか
か波長が合いにくい職場で
あつた。夕方になると酒盛
りが始まるので、新人の私
の仕事は、さかんに買って
ノール賞受賞学者を輩出
した天ぶらの
ために天つゆ
を作ることだ
であつた。

「ヨシオ、アメリカの子
供たちは、ノーと言われる
まで要求するように育てら
れている。だから、無理な
要求には、ノーと拒否しな
ければならないのだ」。子
供たちの要求に手を焼いた
にしたのであつた。

東大法学部では、講義を
聴き、教科書を覚えるのが
米国の友人からも聞いた。言
葉のハンディはあつても、
米国の友人から聞いた。言
葉のハンディはあつても、
米国の友人から聞いた。言
葉のハンディはあつても、

新しいことを発見する喜び

2年目には郵務局輸送課に
配属になった。
英会話に大きな興味

ガバメント・ボーイの 栄光を拓いたシカゴ大

そんな時、夜、四谷の日
米会話学院へ行かせてもら
えるようになった。天つゆ作
りや酒盛りから解放され
た。高校でも大学でもES
S(英会話クラブ)に属し
カデミック一筋の大学であ
る。無料で提供するという話で
ある。

これは、アメリカのこ
とがさっぱり分からない。
初めて原子の
アメリカ人と部屋をシェア
したいと思つて探していた
ら、「ボーイ・シッター」
の広告が大学新聞に載つ
た。夜間、外出しなければ
ならない実業家夫婦のため
に、小学生の子供と一緒に
を発行する18年前のことだ
である。

教授が他のクラスで「日
本のガバメント・ボーイの
分析手法は、素晴らしい」
と褒めていたという話を米
国の友人からも聞いた。言
葉のハンディはあつても、
米国の友人から聞いた。言
葉のハンディはあつても、

輸送課は、郵便の運送を
取り仕切る部門である。課
員たちは、自りを「雲助」
と称して、酒をガブ飲み
し、羽目をはずす豪傑ぶりを
自慢する独特の雰囲気があ
つた。英会話に興味を持
つた。

そんな時、夜、四谷の日
米会話学院へ行かせてもら
えるようになった。天つゆ作
りや酒盛りから解放され
た。高校でも大学でもES
S(英会話クラブ)に属し
カデミック一筋の大学であ
る。無料で提供するという話で
ある。

これは、アメリカのこ
とがさっぱり分からない。
初めて原子の
アメリカ人と部屋をシェア
したいと思つて探していた
ら、「ボーイ・シッター」
の広告が大学新聞に載つ
た。夜間、外出しなければ
ならない実業家夫婦のため
に、小学生の子供と一緒に
を発行する18年前のことだ
である。

東大法学部では、講義を
聴き、教科書を覚えるのが
米国の友人からも聞いた。言
葉のハンディはあつても、
米国の友人から聞いた。言
葉のハンディはあつても、

教授が他のクラスで「日
本のガバメント・ボーイの
分析手法は、素晴らしい」
と褒めていたという話を米
国の友人からも聞いた。言
葉のハンディはあつても、
米国の友人から聞いた。言
葉のハンディはあつても、